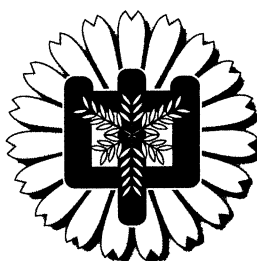


# 第1回 進路説明会

令和8年4月18日



## 内容

1. 進路選択の基本的な考え方
  2. 中学卒業後の進路について
  3. 都立高校入試について(概略)
  4. 私立高校入試について(概略)
  5. 奨学金制度について
  6. 私立高校の学費負担を軽減する制度について
  7. スピーキングテスト(ESAT-J)について
- 《参考資料》

渋谷区立代々木中学校

3年	組	番	名前
----	---	---	----

## 1 基本的な考え方 <進路の実現に向けた4原則>

- ①自分の能力をさらに生かす
- ②自分に適している
- ③進路を決める「主役」は自分自身
- ④家族とよく話し合い、意見を一致させる

## 2 中学卒業後の進路について

- 1. 就職 ①事業所を選ぶ、縁故で就職する ②職業訓練校を経て就職する
- 2. 進学 ①高校 ②高等専門学校 ③高等専修学校 ④各種学校（サポート校を含む）

### ア. 就職

中卒後の進路選択の中で最も厳しい道が就職です。「勉強が嫌い」という理由だけで就職を選んではいけません。自分の適性や能力を見極めて選択する必要があります。

#### 1. 希望する事業所について調べよう。

- (1) 学校に送られてくる事業所案内やハローワーク（公共職業安定所）の求人情報を読む。
- (2) ハローワークを訪ねて、係員から説明を聞く。
- (3) 進路指導担当の先生から説明を聞き、資料を得る。
- (4) 事業所を訪問して見学する。
- (5) 希望する事業所で働いている卒業生などを訪ねて説明を聞く。

#### 2. どんなことを調べたらよいか。

- (1) 正式な事業所名と所在地、電話番号、通勤経路と所要時間。
- (2) 職場の環境や雰囲気。
- (3) 事業所の所属する産業名、生産、営業品目。
- (4) 経営の規模や組織、従業員数（男女別）、平均年齢。
- (5) 中学卒業者を募集している職種名、仕事の内容、選考方法。
- (6) 就業時間、休日、休暇、勤務形態、残業の有無。
- (7) 賃金、諸手当、昇級。
- (8) 通勤・住込みの別、宿舍の様子。
- (9) 社会保険や健康保険など。
- (10) 福利厚生施設・設備。
- (11) 定時制高校などへの通学条件。
- (12) 事業内職業訓練や研修制度の有無。
- (13) 労働組合の有無。

#### 3. 事業所への応募（就職）のしくみ

- (1) 求人情報…11月頃から、ハローワークを通して中学校に連絡される。
- (2) 就職試験…1月中旬以降に各事業所から一斉に実施される。面接と身体検査だけのところが多い。
- (3) 就職を希望するものは、ハローワークで行う職業適性検査を受けておくといよい。

## イ. 進学

### (1) 高等学校

\*全日制(3年)、定時制(3~4年)、通信制(3年以上)などがあります。

### (2) 高等専門学校

\*高等専門学校は5年制の高等専門教育の機関です。全国に57校(国立51校、公立3校、私立3校)設置されています。もっとも多い学科は機械工学科で44校、次いで電子制御工学科と応用工学科が21校あります。商船学科は5校で設置されています。東京では、東京都公立大学法人・東京都立産業技術高等専門学校(品川区・荒川区)、国立東京工業専門学校(八王子市)、私立サレジオ工業高等専門学校(町田市)などがあります。

### (3) 高等専修学校(専修学校高等課程)

\*専修学校は修業年限が1年以上で、中学校卒業を入学資格とする専修学校(高等課程)を高等専修学校といえます。一定の条件を満たさない学校は各種学校といえます。いずれも昼夜あり、比較的短時間にすぐ職業に役立つ技術・技能を教え、高等学校のような一般教養科目は少ないです。

\*技術と教養をもった社会人(職に就く)を養成するために、教科指導だけでなく、職業指導・生活指導にも力を入れています。卒業後すぐに就職に役立つ学習内容です。意欲と適性が重要です。

\*工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養の8つの分野に分類されます。

\*授業料 高校よりも高いです。

### (4) 職業能力開発センター(職業訓練校)

\*技術を身に付けてから就職する道です。半年から2年の課程です。

\*訓練修了者には、公共職業安定所が積極的に就職先を紹介してくれます。技能講習修了証などの修了証が得られます。

\*訓練科目 機械・溶接・工業彫刻・木工・塗装・金型・プラスチック加工・家電品サービス・電気工事・自動車整備・プログラミング・インテリアなど

### (5) 各種学校

\*サポート校

通信制高校は、入学資格もゆるやかで、自学自習を基本とした学びの場です。しかし、それだけに学習を続けていくには「強い意志」と「自主性」が必要になってきます。

そこで注目をされているのがサポート校です。サポート校は学校法人ではない民間の教育機関で、通信制高校のレポート提出やテスト対策を全面的にバックアップし、卒業までをサポートしてくれるところです。ただし、サポート校が提携している通信制高校と、サポート校との両方に学費を納めることとなります。

### 3 都立高校入試について

(令和7年10月発行の「令和8年度東京都立高等学校募集案内」の内容から抜粋)

#### (1) 推薦に基づく選抜

##### 応募資格

次の(1)から(3)までの全てに該当し、志願する都立高校を第1志望とする者。

- (1) 令和7年12月31日現在、都内に所在する中学校に在籍し、令和8年3月に都内の中学校を卒業又は修了する見込みの者
- (2) 推薦入試に出願する意思があり、在学している中学校長の推薦を受けた者  
(本校では推薦検討委員会にて認められた上で、校長による承認が必要となります。)
- (3) 保護者と同居している者で、令和7年12月31日現在、都内に住所を有し、それ以降都内に住所を有し  
それ以降も都内に住所を有し、かつ入学後も引き続き都内から通学することが確実な者

##### 選考

#### (1) 一般推薦

- ・選考は、調査書、個人面接（集団討論を実施する学校は集団討論を含む。）、小論文又は作文等の検査を総合した成績（以下「総合成績」という。）、入学願書による志望及び都立高校長が必要とする資料（自己PRカードを含む。）により行います。
- ・全ての都立高校で、調査書における各教科の観点別学習状況の評価（全27観点）又は評定（9教科）のどちらか一方を調査書点として点数化します。ただしエンカレッジスクールとして指定された都立高校は、観点別学習状況の評価を用います。
- ・自己PRカードは、点数化しませんが、個人面接の面接資料として活用します。

集団討論・・・昨年度（令和8年度入学入試）は6校で実施（日比谷、西、北園、竹早、調布南、鷺宮）

#### 〔集団討論〕

与えられたテーマについて自分の考えを明確に述べるができるか、複数名の受検者同士が一つのテーマに関して論理的に議論を進めて、結論を導くことができるかなどを確認します。

#### 〔個人面接〕

出願の動機・理由、興味・関心、規範意識・生活態度や自己PRカード（巻末資料3参照）の記載内容について質問され、これまでの経験等を今後の高校生活で生かせる力があるかどうかなどについて回答します。

#### (2) 特別推薦

- ・選考は、「9 文化・スポーツ等特別推薦実施校の入試方法等一覧」に基づき、総合成績により行います。個人面接又は集団面接及び実技検査のほか、小論文又は作文等の検査を適宜組み合わせ、選考資料として用います。なお、個人面接や集団面接に当たっては、自己PRカードを面接資料として活用します。

### (3) 特別推薦（理数）

・選考は、「10 理数等特別推薦実施校の選抜方法等」に基づき、総合成績により行います。個人面接、科学分野等の研究に関するレポートに関する口頭試問及び小論文の検査を組み合わせ、選考資料として用います。なお、個人面接に当たっては、自己PRカードを面接資料として活用します。

#### 〔自己PRカード〕 巻末資料3を参照

生徒が次の3項目を自分で記入し、面接がある学校は出願時に提出します。

ただし、一般入試で面接がない都立高校に合格した者は、発表後の指定された期日までに提出を求められます。

**1. 志望理由**（この学校を志望した理由と入学してから自分が取り組みたいと思うことなど）

**2. 中学校生活の中で得たこと**

（中学校生活の中で自分が特に伝えたいことを学校内外で体験したことから選び、そこから自分が得たこと）

**3. 高等学校卒業後の進路**

（将来の夢や目標、将来なりたい職業など、高等学校卒業後の進路について自分が考えていること）

→各高等学校が示す本校の期待する生徒の姿」を参考にし、記入します。

→自己PRカードは個人面接の資料や合否を決める判断材料として活用されます。

## (2) 学力検査に基づく選抜(第一次募集・分割前期募集)

### 応募資格

入学を志願することのできる者は、平成23年4月1日以前に出生した者のうち、都立高校の全日制及び定時制並びに都立高専共通の応募資格に該当し、高校又は高専に在学していない者で、かつ、志願する都立高校の全日制若しくは定時制又は都立高専の応募資格を有すること。

令和8年度入試において都立高校等に合格した者は、原則それ以後の都立高校等への応募や受検はできません。

1 都立高校の全日制及び定時制並びに都立高専共通の応募資格

令和8年3月に中学校を卒業する見込みの者又は卒業した者

2 全日制の応募資格

保護者と同居している者で、都内に住所を有し、入学後も引き続き都内から通学することが確実な者

3 定時制の応募資格

都内に住所又は勤務先を有し、入学後も引き続き都内に住所若しくは勤務先を有することが確実な者又は入学日までに都内に住所若しくは勤務先を有することが確実で、入学後も引き続き都内に住所若しくは勤務先を有することが確実な者。

### 選考

試験当日の学力検査の得点、調査書点を総合得点とします。ただし、これに加え、面接、作文や小論文、実技などを実施する学校もあります。

1. 学力検査は、原則5教科とする。ただし、第二次募集・分割後期募集は原則3教科とする。

2. 学力検査の得点と調査書点の比率は、7:3とする。ただし、第二次・後期募集は、6:4とする。

3. 解答用紙は、マークシート方式を実施する。

4. 学力検査を実施しない教科の評定は2倍とする。

### 〔調査書点〕 (内申点)

【学力検査が5教科】国数英社理(5+5+5+5+5)+音美技家保体2×(5+5+5+5)=65点

【学力検査が3教科】国数英(5+5+5)+社理音美技家保体2×(5+5+5+5+5+5)=75点

※3年生の4月から12月までの成績を進路用の評定として算出します。

## 4 私立高校入試について

### (1) 特徴

私立高校は都立高校と異なり、その学校の創始者の建学の精神に基づいて特色ある教育の実践を行っています。また、共学校だけでなく男子校、女子校などもあります。大学の付属や系列校、更に、宗教教育、特徴のある教育を行っている学校もあるので、校風や教育方針などをよく調べて志望校を決定する必要があります。

### (2) 入試相談

「入試相談」とは、12月中旬に中学校の教員と私立高校の先生が、各入試形の受験に関して行う相談のことで、受験生本人や保護者が高校と相談する個別相談とは違います。私立高校の進学や、都立高校や他の私立高校を第一志望としている場合に、各私立高校が示す一定の基準をクリアしている受験生について私立高校側が予め把握し、選考に関して配慮する東京都の中学校と私立高校が行っている独自の制度となっています。

決められた入試相談日(12月中旬)が終了してから連絡をとっても、受け付けてくれません。したがって、以下に示す入試形態のうち、推薦及び併願優遇受験希望者は、12月の面談時に本校指定の「入試相談用紙」を提出する必要があります。

★高校が併願優遇の希望者を、「生活態度に問題がない者」と明記している場合があります。

★推薦制度や併願優遇の制度を利用する場合、学校見学が必須条件になる場合や、学校見学をしていないと不利になる場合があります。

★推薦、併願優遇の場合は、「入試相談」において、出願資格があるかどうか示されます。ここで否がでた場合は、推薦入試や併願優遇では受験することができません。

### (3) 入試形態

#### ①推薦制度を利用した受験(単願推薦)・・・1月下旬

- ・各高等学校側から示された基準(人物評価・成績・出席状況)に達していないと合格することが難しくなります。また、推薦入試では学科試験を課さない学校がほとんどで、面接・(作文)・調査書・推薦書等を総合的にみて判断し合否が決定します。特に面接を重視する学校が多いようです。
- ・私立高校1校だけ受験できる。(都立高校も含めた他の学校を受験することができません)

★推薦受験の希望者は、本校の推薦検討委員会にて認められた上で、校長による承認が必要となります。

- ・内申基準→3科合計、5科合計、9科合計のいずれか又は複合で基準が示されます。

・入試までの流れ

(ア)11月の教育相談で受験校をほぼ決定。(12月面談で基準に満たしているか確認し、提出書類の準備を始めます)

(イ)12月中旬の定められた期日に間に合うように、中学校から高校側に推薦受験者に関する書類を提出します。(※(2)で説明した入試相談のことです。)

(ウ)東京では1月15日以降に出願。受験日は、多くの学校が1月22日～25日頃に集中します。

\*学校によって入試日は異なります。

(エ)合格発表は試験の当日または1～2日後ぐらいのところが多いようです。

## ②都立高校との併願優遇（都立併願）・・・2月10日～12日頃

- ・12月15日前後に行う中学校と私立高校との間で行う「入試相談」を経て、出願する方法です。
- ・高校が示す基準を満たせば、私立高校を第2志望としておさえたいうえで都立の志望校の受検が可能となります。

例 第1志望として、都立高校の受検。

第2志望として私立高校（併願優遇）を受検。

- ・基準は、①の単願推薦の基準と比べるとやや高めに設定されています。
- ・第一志望の高校が不合格のときは、併願優遇をした私立高校に進学するという約束となります。（合格発表のあと、都立二次募集の受検や他の私立高校を受検することはできません）
- ・2月10日～2月12日頃の定められた日程で一般受験の生徒と共に受験を受けます。
- ・都立合格発表まで、入学手続きを待ってくれます。その際、延納願いを提出したり、一時金を納入する場合があります。

## ③他の私立との私立併願優遇（私立併願）・・・・2月10日～12日頃

例 第1志望として、他の私立高校（入試相談を伴わない）を受検。

第2志望として、他の私立高校（入試相談を伴わない）を受検。

第3志望は、（併願優遇を利用する）私立高校を受検。

- ・基準は、①の単願推薦の基準と比べるとやや高めに設定されています。
- ・第一志望の高校が不合格のときは、併願優遇をした私立高校に進学するという約束となります。（合格発表のあと、都立二次募集の受検や他の私立高校を受検することはできません）
- ・2月10日～2月12日頃の定められた日程で一般受験の生徒と共に受験を受けます。
- ・都立合格発表まで、入学手続きを待ってくれます。その際、延納願いを提出したり、一時金を納入する場合があります。

\* 私立併願を認めていない私立高校もあります。

\* 基準を満たしていても合格を確約しているわけではないので、他の私立学校の併願を勧める高校があり、「私立併願」が一般的になってきました。

## ④一般受験

- ・「入試相談」の制度を用いない受験のことを指します。
- ・基本的には受験教科を3教科（国・数・英）とする学校が多いですが、その他に作文や面接実技試験等を課する学校もあります。例年、東京の私立高校では、試験日が2月10日～12日に集中しているので、複数の学校を受検する場合には、受験日が重なる可能性があります。したがって、志望校の選定には、特に注意が必要です。

## (4) その他のポイント

- ①資格・・・英検、漢検、数検などの資格取得にチャレンジしましょう。合格証書は大切に保管すること。
- ②会場テスト（模試）などに挑戦してみましょう  
→資料としてファイリングしておき、三者面談の時に持参してください。
- ③高校説明会、体験入学、文化祭などに行き実際に目で見てくること。  
→案内については、校内にも掲示していますので活用してください。
- ④進学についての基本的な考え方について
  - ・親子で進学について話し合いをもち、しっかり考えること。
  - ・進路希望調査に記入する。（印鑑を忘れずをお願いします）
  - ・三者面談等で担任と話し合う。（進学に対する支援はいたしますが最終決定はご家庭です）
- ⑤私立推薦の基準について
  - ・内申点（4月から12月までの成績）
  - ・資格（英検、漢検、など）
  - ・人物評価
  - ・部活動での大会の記録（都大会出場など）
  - ・出欠席（欠席、遅刻、早退の日数・・・3年間で10日以内など）の制限がある。

\*国立の高校や東京都立産業技術高等専門学校の入試形態（入試日程・受験教科など）は私立高校や都立高校とは異なります。

## 5 奨学金制度について

奨学金制度は各種団体から用意されています。

### 交通遺児育英会奨学金制度

- 保護者が交通事故で死亡・重度後遺障害者となった家庭のお子様を対象
- 高校生以上の生徒・学生に貸与
- 奨学金は無利息
- 奨学金 月額 2万円～4万円（一部給付あり）
- 入学一時金 20万円～60万円（1年次1回限り・全額貸与）定期／自宅外（年額貸与）
- 返還は最長20年
- 入学時の予約申請制度あり
- 「海外語学研修」「奨学生の集い」などの制度あり（本会が費用負担）  
当該ホームページをご覧ください。

### あしなが高校（高等専門学校）奨学金

- ・募集期間 : 2026年9月1日から12月15日
- ・奨学金月額 : 30,000円（給付）  
私立高校入学一時金（30万円）を貸与する制度もあります。  
送金は入学後、別途審査有。
- ・募集人数 : 1,100人程度
- ・返 還 : 私立高校入学一時金は高校卒業後から20年以内に無利子で分割返済  
〔お問い合わせ〕 一般財団法人あしなが育英会 <http://www.ashinaga.org>

## 6 私立高校の学費負担を軽減する制度について

世帯年収等により額が異なりますので、利用できる制度を確認する必要があります。  
以下の5つの制度は、都内在住の方なら併用ができます。

助成（返還の必要がない制度）

国の制度  
**就学支援金**

都の制度  
**授業料軽減助成金**

都の制度  
**就学給付金**

貸付（返還の必要がある制度）

都の制度  
**育英資金**

学校独自の制度  
**入学支度金**

★制度の詳細については、東京都私学財団のホームページ・冊子をご覧ください。

## 7 スピーキングテスト (ESAT-J) について

### (1) ESAT-Jとは

中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) は、中学校の英語の授業で学んだ内容を使って、「英語でどれくらい話せるようになったか」を確認するためのテストです。このテストは、令和4年度から、東京都内の公立中学校に通う3年生を対象に始まりました。その後、

- 令和5年度からは
  - 中学1年生を対象とした「ESAT-J YEAR 1」
  - 中学2年生を対象とした「ESAT-J YEAR 2」が実施されています。

さらに令和6年度からは、中学3年生を対象としたテストの名称が「ESAT-J YEAR 3」に変更されました。

### (2) ESAT-Jの都立入試利用

中学3年生で受験するESAT-J (ESAT-J YEAR 3) の結果は、都立高校の一般入試において活用されます。都立高校の一般入試では、

- 学力検査（当日の筆記試験）、
- 調査書（学校の成績）に加えて、
- ESAT-Jの結果が「20点分」として合計点に加えられます。

入試の合計点は1020点満点となっており、ESAT-Jはそのうちの20点を占めます。

ESAT-Jの結果は、A～Fの6段階で評価され、都立高校入試では次のように点数に換算されます。

#### 評価 入試での換算点

- A 20点
- B 16点
- C 12点
- D 8点
- E 4点
- F 0点

このように、

「話す力」の評価が点数として入試に反映される仕組みになっています。なお、ESAT-Jは入試全体のごく一部（約2%）ですが、この点数が結果に影響することもあります。大切なのは、難しい英語を話すことではなく、中学校の授業で学んだ英語を使って、伝えようとする姿勢です。

令和 8 年 4 月 1 日  
進路指導部

## 高等学校等の推薦基準について

### 1. 推薦決定までの手順

- (1) 学年会で検討
- (2) 推薦検討委員会で検討
- (3) 職員会議で確認
- (4) 校長の決定

※文化・スポーツ等特別推薦、部活動等の推薦についてもこれに準ずる。

※私立単願推薦も同じ扱いとする。

### 2. 高等学校等推薦入学試験への出願基準

- ①該当高等学校等が第一志望であり、合格したら必ず入学すること。
- ②該当高等学校等の学校見学、学校説明会、体験入学のいずれかに参加していること。
- ③該当高等学校等の推薦基準を満たしていること。
- ④出席状況が良好で、遅刻・早退が少ないこと。
- ⑤班活動、学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動など集団活動に熱心にとりくんでいること。
- ⑥学習活動では全教科にわたり真面目に努力していること。
- ⑦生活指導面で多少の間違い、失敗はあるものの、教師の指導に素直に従い、改善する姿勢が認められること。
- ⑧推薦入学試験（併願含）を受験する場合、受験前・受験中・受験後（合否に関わらず）卒業までしっかりと学習と学校生活に取り組めること。

### 3. 高等学校等推薦受験不適格条項

- ①反社会的問題を起こし、学校内外の各方面に多大な迷惑をかけたことが明らかな場合。
  - ②学校生活のあらゆる場面において教師の指導に素直に従わず、度々反抗的な態度や言動を示し、改善する姿勢が認められない場合。
- （以上の項目のいずれかに該当する生徒は、推薦受験を希望しても、これを認めない）

## 【参考】東京都立高等学校入学者選抜の日程について（今年度は未定）

## 1 推薦に基づく選抜

	令和9年度入学者選抜〔未定〕	令和8年度入学者選抜〔昨年度参考〕
出願受付期間	〔志願者情報入力期間〕 令和 年 月 日（ ）～ 令和 年 月 日（ ）午後 時 〔書類提出期間〕 令和 年 月 日（ ）～ 日（ ）	〔志願者情報入力期間〕 令和7年12月19日（金）～ 令和8年1月16日（金）午後5時 〔書類提出期間〕 令和8年1月9日（金）～16日（金）
実施日	令和 年 月 日（ ）・ 日（ ）	令和8年1月26日（月）・27日（火）
合格発表日	令和 年 月 日（ ）	令和8年2月 2日（月）

## 2 学力検査に基づく選抜

## (1) 第一次募集及び分割前期募集

	令和9年度入学者選抜〔未定〕	令和8年度入学者選抜〔昨年度参考〕
出願受付期間	〔志願者情報入力期間〕 令和 年 月 日（ ）～ 令和 年 月 日（ ）午後5時 〔書類提出期間〕 令和 年 月 日（ ）～ 月 日（ ）	〔志願者情報入力期間〕 令和7年12月19日（金）～ 令和8年2月5日（木）午後5時 〔書類提出期間〕 令和8年1月30日（金）～2月5日（木）
実施日	令和 年 月 日（ ）	令和8年2月21日（水）
合格発表日	令和 年 月 日（ ）	令和8年3月 2日（月）

## (2) 分割後期募集及び第二次募集

	令和9年度入学者選抜〔未定〕	令和8年度入学者選抜〔昨年度参考〕
出願受付日	令和 年 月 日（ ）	令和8年3月 5日（木）
実施日	令和 年 月 日（ ）	令和8年3月10日（火）
合格発表日	令和 年 月 日（ ）	令和8年3月13日（金）

## (3) 定時制第二次募集

	令和9年度入学者選抜〔未定〕	令和8年度入学者選抜〔昨年度参考〕
出願受付日	令和 年 月 日（ ）	令和8年3月23日（月）
実施日	令和 年 月 日（ ）	令和8年3月26日（木）
合格発表日	令和 年 月 日（ ）	令和8年3月27日（金）

\* 都立高校入試については、東京都教育委員会から詳しい資料（冊子になっています）

『令和8年度 東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ』（6月下旬）

『令和8年度 東京都立高等学校募集案内』（10月下旬）が配布されますので、参考にしてください。

\* 都立高校の合同説明会や各高校ごとの説明会などは東京都教育委員会や各高校のホームページで確認してください。

(様式12) (A4判)

受検番号	※	コース・科(分野)・部	受検番号	※	コース・科(分野)・部
文化・スポーツ等 特別推薦	※		一般推薦	※	
理数等 特別推薦	※		一般選抜	※	

# 自己PRカード

東京都立 \_\_\_\_\_ 高等学校長 殿 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
 \_\_\_\_\_ 立 \_\_\_\_\_ 中 学 校  
 氏 名 \_\_\_\_\_

## 1 志望理由について

(この学校を志望した理由と入学してから自分が取り組みたいと思うことなどについて『本校の期待する生徒の姿』を参考に記入しましょう。)

## 2 中学校生活の中で得たことについて

(中学校生活の中で自分が特に伝えたいことを学校内外で体験したことから選び、そこから自分が得たことについて具体的に記入しましょう。)

## 3 高等学校卒業後の進路について

(将来の夢や目標、将来なりたい職業など、高等学校卒業後の進路について自分が考えていることを具体的に記入しましょう。)

- (注意)
- 1 志願者が手書き又は電子ファイルへの入力及び印刷により作成する。手書きにより作成する場合は、黒のペン又はボールペンで記入する。ただし、摩擦に伴う温度変化等により消色するインクを用いたペン又はボールペンは、使用しないこと。  
 なお、コピー等鮮明な表記のものは認める。
  - 2 推薦に基づく選抜を志望する者、学力検査に基づく選抜において面接を実施する都立高校を志願する者は、この自己PRカードを出願時に提出する。また、面談の対象となる者、一般の学力検査における引揚生徒の受検についての配慮又は定時制成人受検者特別措置により受検する者についても、出願時に提出する。
  - 3 ※欄は記入しないでください。

